

# 松代地震センター設立の経緯

松代地震センター設立のきっかけとなったのは、1965(昭和40)年11月、社会党の国会議員調査団が視察にやってきた際「今、地元として一番必要なものは何か、お金か、物資か。」の問いに対して「何よりも学問がほしい。」と答えた中村松代町長(当時)の言葉だと言われています。

また、1966(昭和41)年5月佐藤内閣総理大臣による現地視察の際に、「やがて地震が収まり、地元には後に被害が残るであろう。しかし、地震予知の研究にはこの地震によって大きな成果が得られたと聞く。地震の当初、地震学者は過去の地震資料がなくて、この地震の将来の予測に苦労したと聞くので、松代地震の観測資料を一堂に集めて、世界の地震学者の研究に供し、今後地震に襲われた所の住民が、同じ苦しみを二度と味わわないで済むようにしてほしい。」と中村町長(当時)は地震センターの設置を陳情しました。

松代群発地震発生的一年後から再び活動が活発化し、大量の湧水、地すべりの発生と事態は重大化しました。このような中で地震センターの問題は国会においても検討され、紆余曲折はありましたが、中村町長(当時)の願い、各省庁間の努力が実り、1967(昭和42)年2月、松代地震センターが設立されました。



1966.5.19 佐藤内閣総理大臣へ陳情